



濃笑

特別  
A5  
6673  
25  
早稲田大学図書館





寶曆十二壬午

高頃



歳旦

あけぐけ 先難者 七碗

常盤木と君やひく 五雲

あつとぬ花の光り 竹雅

多も啼き 得之

貫ひ神の笑ひ 蘆圭

蒼々も末 奇木

初雪や 甫文

破磨りや 寸松

待文ん神の 洞橋

春くゆく 夢里

花く近き 翁山

若水や先 清雅

梅も笑 紫石

茂り神の 帆後

雪の音も 言柳

庭蔭の香 風之







一色と手あはあはく借るきり 蒼直

さひりきりぬく讀くくいさや 夢夕

花のつゝ美樂きあまんんと 南文

琉球おきてかづくさし又 帆後

あつははと替るくく道さかり 善山

いつ出代り乃 妻母公 奇木

八卦名く難く八年もかき水は 徳之

橋くさ厚き音能縁り 市牧

西裁許とす家ほく坊のまき事多 寸松

市能伝り水 聲へ言傳 文

替るくく替るぬるをいふなり 里仙

善清の土子 畠 一枚 千丈

自然も溜水の砂は松のくく 尚雅

すくく替る音以 依居心 志葉

引さいつ丸の川ほんく及古鏡 風立

くさく奇飛く 野の出さし 言味

あつく能星りも花能雪あは 清雅

あはくく 冬 姫 常乃 奇 草

東陽書の名みきく、替る能  
一樹のまや咲けく

善清の能ほつるく水  
年能梅 五井村



